

# ときめき人

Tokimeki bito



## 中学時代に付いた フォークの火は 赤から青へ 生涯音楽と共に

米山町・清水

### 清水 明さん

しみず・あきら  
1961年生まれ 血液型/A型

#### Profile

「清水バンド」結成以来、バンドマスターを務めている。1991年から本格的に活動。ライブ活動だけではなく、市や各種団体のPRソングなども手がけている。好きな歌手は岡林信康。趣味は妻と韓国ドラマを鑑賞すること。



バンドメンバーで、パーソナリティも務める

「フォークソング好きの仲間が集まって、なんとなく始まった」とバンド結成当時を振り返る。

1960年代から70年代にかけて、国内はフォークソングが大流行。当時中学生だった清水さんは、ラジオから聞こえてきたフォークソングに心を奪われた。清水さんは「マイクや機械を通さずに、生の声とギター之音だけでメッセージを伝える。それがなんともいえずかっこいい」とフォークソングの魅力を語る。

「いつかは音楽の世界に入りたい」。それから寝ても覚めてもフォークソングさんまい。当時、高価だったレコードを買うためアルバイトを始めた。さらに、友達や知り合いからレコードを借り、カセットテープに録音し、伸びるまで聴いた。そし

て高3で、千葉昭浩さん、福泉秀さんと「清水バンド」を結成した。

順風満帆に続くと思われたバンド活動は、高校卒業後、仕事、地域行事や家庭生活の忙しさから自然休止。結婚式や職場の余興で歌う程度となった。しかし、清水さんの音楽活動への火は消えていなかった。中学時代真っ赤だった音楽への情熱は、時が立つにつれ温度が上がり、青い炎になっていた。

活動休止から約10年。妻の職場のイベントに声がかかり、そこからバンド活動を再開。今では年間50日ほどステージに立っている。

「登米市でしか、自分たちにしかできない音楽活動をいつまでも続けたい」。今日も市内のどこかで、清水さんの歌声とギター之音が響いている。

## 編集後記

▼PR動画の「登米無双」。これを書いている段階で、50万件以上再生されている。多くの人たちが興味を持ってくれている。自分が気になっているのはタイトルそのもの。登米に並ぶものはないほど優れているという意味だ。すてきなまことに生まれ育ったと胸を張りたい。(及川)

▼「はっと」の由来をPR動画で知りました。お米が満足に食べられない時代、飢えをしのぐために代用食として生まれたと。先人たちの苦労から生まれたおいしい「はっと」。歴史を知ったことで感慨深く、よりおいしく頂くことができました。(千葉)

▼11月12日、市役所迫庁舎の議会議事堂で開かれた子供議会2016の取材に行きました。子供議員は、子ども医療費やシティブロモーションなど、それぞれが考えた題材を質問。子どもたちの質問は、詳しく調査されており、登米市への関心の深さが感じられました。(田代)



モバイルとめ  
(携帯電話版ホームページ)  
<http://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス  
(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)  
<http://tomecity.mail-dpt.jp/>

